学校番号	2004

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	音楽表現β	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

独唱や独奏など、一人での演奏を目的とした授業です。演奏する力はもちろん、音楽にかかわるうえで必要な課題解決力なども同時に育みます。自分のペースで取り組むことができますので、これまでの音楽経験は問いません。今までやってこなかったことに挑戦することもできますので、新たな自分に出会えるような時間になればと思っています。

2　学習の到達目標

音楽の多角的な活動を通じ、高度な音楽的見方・考え方を縦横に働かせ、変革する生活や社会、多様な音楽文化と新たな価値を共創する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

（１）　曲想と音楽の構造、文化的・歴史的背景の相互関係や音楽の多様性をクリティカルに分析・理解するとともに、現代のメディアや先端技術等も柔軟に活用し、高度な創意工夫を生かした表現に必要な技能を習得する。

（２）　独自の解釈に基づき音楽表現を創造的に再構築（アレンジ・発信）することや、多様な美意識から音楽の多面的な価値を批評し、その本質を深く味わって聴くことができるようにする。

（３）　主体的・協働的な音楽探究プロジェクトに取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を深化させ、感性を研ぎ澄ますとともに、新たな音楽文化の地平を拓き、持続可能な社会のウェルビーイング向上に主体的に寄与する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲の背景や文脈を多角的に分析・批評し、独自の解釈に基づいた意図を演奏で表現している。 ・創意工夫を生かした表現のため、様式にふさわしい奏法やデジタル技術を自ら選択・応用している。また、互いの表現の意図を感知し、新たな音楽的価値を他者と共創して演奏している。	音楽を形づくっている要素やその関連を多角的に分析・感受し、両者の関わりを批評的に捉えながら、独自の表現意図を持って新たな音楽的価値の創出を構想している。また、自らの演奏をメタ認知的に検証し、他者との協働や先端技術の活用も視野に、表現を継続的にアップデートしている。	自律的な探究心を持って表現活動に没頭し、他者との対話や先端技術の活用を通じて、新たな音楽的価値を協働的に創り出そうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	独唱・独奏	自分が取り組みたい楽器などに挑戦し、表現を深めよう	a: 音楽の構造や曲想を深く理解し、表現の意図に応じて奏法や身体の使い方を調整しながら、豊かな響きや洗練された表現技法を用いて器楽で表している。 b: 音楽を構成する要素(音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア等) の働きや相互の関係を多角的・批判的に捉え、自らの感性や根拠に基づいた独自の明確な表現構想 (演奏の意図や工夫) をもっている。 c: 曲想と音色・奏法との関わりや表現上の効果に深い問題意識をもち、自らの演奏の変容や他者との試行錯誤を工夫しながら、粘り強く主体的・協働的に表現の向上を目指している。	・実技テスト	・実技テスト ・工夫した点の記述	・振り返り
後期	独唱・独奏	自分が取り組みたい楽器などに挑戦し、表現を深めよう	a: 音楽の構造や曲想を深く理解し、表現の意図に応じて奏法や身体の使い方を調整しながら、豊かな響きや洗練された表現技法を用いて器楽で表している。 b: 音楽を構成する要素(音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア等) の働きや相互の関係を多角的・批判的に捉え、自らの感性や根拠に基づいた独自の明確な表現構想 (演奏の意図や工夫) をもっている。 c: 曲想と音色・奏法との関わりや表現上の効果に深い問題意識をもち、自らの演奏の変容や他者との試行錯誤を工夫しながら、粘り強く主体的・協働的に表現の向上を目指している。	・実技テスト	・実技テスト ・工夫した点の記述	・振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度